

担い手育成特定資産助成事業 活用事例紹介 後藤修二さん（一関市）

一関農業改良普及センター 佐藤 弘

一関市大東町で、平成 30 年に新規就農した後藤修二さんを紹介します。

後藤さんは、一関地方農林業振興協議会が主催する「新規就農ワンストップ相談窓口」を訪ね、就農に向けたアドバイスを受けました。その後、一関市新規学卒者等就農促進支援事業を活用し、トマトの栽培技術と経営管理を約 1 年間学び、平成 30 年 4 月、31 歳で新規就農を果たしました。

後藤さんは、10a のハウスで経営を開始してから 3 年間、毎年 20 トンを超える高単収を挙げ、JA トマト部会でもトップレベルの成績を収めています。今年は、新規就農スタートアップ支援事業で導入した中古ハウスの分も作付面積が増え、8 月時点で既に前年実績を上回るなど、4 年連続で単収 20 トン越えが確実な見込みです。

本人曰く「単収向上の秘訣は、肥培管理と病害虫防除」とのことです。6 月～11 月までの長期出荷を達成しています。

一方、単収が多い分、栽培管理や収穫作業に労力を要することから、今年は 3 名の雇用を導入して対応しています。

高単収のトマト栽培を追求する後藤さんですが、目標とする出荷量 30 t 以上、売上 1000 万円の早期実現が期待されます。



令和 2 年度事業で移設したハウスの前で



移設したハウスでのトマト生育状況（11 月時点）